

ハーエンキルヒエン=ジーガーツブルン
2018年4月2日

TRACE32 と Mx-Suite によるテストが実現

Danlaw 社が販売する組込みシステムのテストプラットフォームである Mx-Suite は、Simulink モデルとローターバッハ社の TRACE32 デバッガ間の Back to Back テストソリューションを提供しています。Back to Back テストは、シミュレーションモデルと生成された C コードの等価性の実証に使用されます。Mx-Suite は、組み込みソフトウェアやシステムの確認と検証に使用される、ISO 26262 (TUV SUED) 認証の包括的なプラットフォームです。テストスイートは、MiL、C / C ++コード (SiL)、ECU ソフトウェア (HiL) の開発ライフサイクル全体を通して開発、再利用できます。Mx-Suite と TRACE32 の統合により、さらに PiP (Processor-in-the-Loop) ターゲットにまで拡張されます。

ISO 26262 機能安全規格の認証取得には、テストプラットフォームはターゲット環境に可能な限り一致している必要があります。また、MC / DC レベルコードカバレッジ測定も要求されます。ローターバッハ社の TRACE32 と Danlaw 社の RapiCover、高度な自動化、使いやすい GUI、包括的なレポートなどを提供する強力なテストプラットフォーム、Mx-Suite の組み合わせは、Simulink モデルベースの開発において最適なソリューションです。

「ソフトウェア開発ツールチェーンに ISO 26262 認証を取得する際、ツールチェーンのすべてのコンポーネントが検証対象になります。MiL、SiL、HiL、PiL の Mx-Suite を使用することで、認証取得のために費やす労力が大幅に削減できます。さらに、MiL と PiL 間でテストケースを再利用すると、コードジェネレータの認証取得の必要性がなくなります」と開発ディレクターの Michael McCormack 氏は述べています。

「TRACE32 は自動車用プロセッサを包括的にサポートし、強力なデバッグ機能とトレース機能により、オンターゲットテストへのシームレスな移行を支援します。最初のハードウェアプロトタイプが利用可能になる前に、開発プラットフォームからのテストの開始や、仮想ターゲットの使用が可能です。Mx-Suite と TRACE32 を組み合わせることで、エラーの早期検出と市場投入までの時間短縮を実現できます」とローターバッハ社のゼネラルマネージャー、Stephan Lauterbach は述べています。

Mx-Suite は、インフォテインメント、パワートレイン、ステアリング、ブレーキ、ボディ ECU などの自動車分野で使用されており、ECU ソフトウェア開発に使用される業界標準の開発ツールやライフサイクル管理ツールチェーンに容易に統合できます。直感的なユーザーインターフェイス、記録/再生機能、包括的なログ機能など、様々な機能が用意されており、テストの作成と実行、根本的な症状の分離作業を大幅に加速することができます。

LAUTERBACH, TRACE32 μ Trace and other LAUTERBACH products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of LAUTERBACH. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.